

旬の人 加藤 桃子さん

日本将棋連盟 奨励会員



©日本将棋連盟
2014年3月26日、第7期マイナビ女子オープン五番勝負第1局



「タイトルを獲得することで励ましの声が増えました」と語る加藤さん。目下の目標は26歳までに棋士（四段）になることという。

加藤桃子（かとう・ももこ）平成7年、静岡県牧之原市（旧榛原郡榛原町）生まれ。日本将棋連盟所属の奨励会員。現在「女王」と「女流王座」の2冠を保持。座右の銘は「一意攻苦（いちいこうく）。もがき苦しみながらも心を込めて打つことを信条とする。スポーツジムやヨガに通い、心身を鍛える感性も合わせ持つ。師匠は安恵照剛八段。

強くなることが 静岡への恩返しです。

現在、将棋界で「女王」と「女流王座」の2冠を保持する加藤桃子さんは、今、最も注目されている20歳の日本将棋連盟 奨励会員だ。

静岡県牧之原市（旧榛原町）に生まれた加藤さんは、両親の影響で幼少の頃から将棋と触れ合っていた。「父から手ほどきを受けていましたが、勝負を楽しむより、戦法を考えたり、対局を分析することが好きでした」と加藤さんは振り返る。その後、棋士を目指して日本将棋連盟の「奨励会」に11歳で入会。みるみる実力をつけて16歳9カ月で「女流王座」に輝いた。女流タイトルの初獲得としては史上4位の若さだ。「でも私は目標に向かって努力するタイプ。奨励会に入ったばかりの頃は、まわりに圧倒されて気弱になったこともあります」。自身を冷静に観察する姿に対局の分析を楽しむ感性が垣間見える。

加藤さんは勝ち方にこだわる。「自分が編み出した新手で芸術的に勝ちたい。マイナビ女子オープンの第一局ではそれができました。ただ、新手は日々進化するので、これからも毎日が努力と挑戦の連続になるはずですよ」。

そんな加藤さんは牧之原市から「静岡まきのはら大使」に任命されている。「お茶は大好きですが、まだ大使らしいことはしていません。でも今は強くなるのが地元への恩返しになると思っています」。

自分らしさを大切にしながら、もっと強くなりたいと切望する加藤さん。加藤さんの活躍が明日の将棋界を明るく照らす。